

【全学年・全教科の充実プラン】

- ① 本校における全体としての傾向と対策について
- ② 本校における各学年の現状とその分析・考察及び改善案について

①本校における全体としての傾向と対策について

〈国語〉

低・中学年では色々な読み物に興味をもっており、特に読み聞かせの時など感情移入して真剣に聞いている。が、高学年になると自分から読書をする子が減る。自分の考えをまとめ知らせたいことを聞く人に伝える力はあるが、自分と他人の考えの違いに気付いて、話したり聞いたりすることは未熟である。また、文学作品などの読み物では、登場人物と自分を重ねて心情などを読み取ることが苦手である。

そこで、朝の習熟時間やおはようタイム（読書の時間）、授業における少人数制指導を生かして、個に応じた適切な指導の徹底を図っていくとともに、日常生活の中で言語とのかかわりを工夫し、環境や能力を高める。

〈社会〉

体験を通じた学習では課題に対する興味・関心が高く、観察・調査などに意欲的であり、自分たちの生活と結び付けて観点を明確に分かりやすくまとめることができる。しかし、その一方、地図やグラフなどの資料を読み取る力や正確な知識が不足している。

そこで、資料の提示の仕方を工夫したり、活用の機会を増して資料に慣れさせたりし、向上を図る。

〈算数〉

計算練習に進んで取り組んだり繰り返し学習はしているものの、全学年を通し、10、100、0.1、0.01などを単位として加法・減法・乗法・除法の計算の仕方を考えることに欠ける。

そこで、習熟の時間や授業において少人数制指導を生かし、個に応じた指導をし、計算の仕方を学習する際に何を単位としているかを考えさせるようにし、数学的な考え方を身に付けるようにする。

〈理科〉

動植物の学習では、成長の様子を進んで観察したりからだの働きを関係づけて考えることができる。さらにビデオ視聴で、生命の尊重と連続性について、学習成果を上げた。電気の働きや天気の変化についての家庭での調べ学習に工夫があった。顕微鏡・棒温度計の扱いや燃焼の仕組みに経験知識がないことが課題である。

そこで、実験を多く取り入れ、実際に触れたり見たりする機会を増やす。

〈生活〉

同植物の生長を喜んだり四季の変化に気付いたりするが、自分から進んで世話をしたり生活を工夫したり楽しくしたりするまでには至っていない。

そこで、生命の大切さを話したり自主的にできるまでまめに声かけをしていく。

〈音楽〉

音楽を表現することには意欲的だが、歌声の響きや一つ一つの楽音を聴き分けたり聞き取ったりする力に欠ける。

そこで、響きに対する集中力と響きの違いを根気よく追求する態度を養う。

〈図画工作〉

いろいろなことに興味をもち、楽しく造形活動したり、豊かな発想で工夫しながら自由な表現活動ができる。が、学年によっては、用具を工夫して使うことが不十分であったり、想像力に欠けたりする。

そこで、用具を工夫して使うことの大切さを教えたり、一つの考えにとらわれず、いろいろな角度から考えて

表現させるようにする。

〈家庭〉

調べ学習で家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが理解できた。が、その実践状況は見取りにくい。調理実習では日常生活での経験不足が目立つ。

そこで、家庭にも呼びかけて、休日のお手伝い表をつくり、家庭からも一言書いていただくなど、学校と家庭の連携・協力を図り、日常生活の中での経験を増やす。

〈体育〉

基礎体力や基本的な運動能力が不足している。なおかつ能力差が激しい。低学年ではできないことがあっても何度でも挑戦するのに対し、学年が進むにつれ、自分で思うようにならないとあきらめる傾向が強くなる。

そこで、体を動かす機会を多くしたり、自分に合った課題を考えて取り組むようにしたり、チームでの協力や励まし合いを大切に進めるようにしていく。

〈総合的な学習の時間〉

地域の特性を生かした学習や地域との交流などに意欲的に参加した。自然体験学習、情報教育や国際理解教育に主体的に取り組んでいる。英語活動で学習したことを英語が母国語である子との交流に生かし、実践している。

「さんさんタイム」の名称も定着した。

〈特別活動〉

どの学年も、自分たちの学級や学校生活を充実・向上させようとする姿勢がある。低学年は、係や当番の活動に進んで取り組んでいる。中学年では、3年生は生活班や校外学習の班活動がよい。4年生はクラブ活動において自らの興味・関心を追求している。高学年では、募金活動やゴミ0運動などに自主的に活動している。6年生は、学級での問題点を上げ、話し合い、解決策を考えることができる。

そこで、各学年の実態に応じ、実践的に指導し、身に付けるようにする。

〈道徳〉

どの学年も正直で明るい心を持ち、元気よく育っている。友だちと仲良く助け合う姿勢がある。

低学年は、掃除や当番・係の仕事が進んでできる。2年生はみんなが使う物（一輪車の片付けなど）を大切に、約束やきまりを守ることができる。1年生の中には、まだ身の回りの片付けができない子も多い。

中学年は、あいさつがよい。3年生は、自分でできることをやらないことがあったり、掃除など進んでやらない子が目立つ。4年生は自分で決めたことはやり遂げるが、中にはあまり考えずに行動する子がいる。

高学年では自然体験学習が生きており、自然を大切にすることが強い。5年生は、自分自身に関する内容の全般について道徳的実践力を高めることが課題である。6年生は、高い目標ではなく、簡単に達成できそうな目標にし、失敗したりすることを回避している。

そこで、授業時間をしっかりと確保し、副読本や心のノートを活用し、各学年の実態に応じ、実践的に指導する。

②本校における各学年の現状とその分析・考察および改善案について（次頁から一覧表を参照）